

旧手宮線沿いに地域拠点

コミュニティスペース&カフェ「レールウェイ」



コミュニティスペース「レールウェイ」を運営する高野宏康さん
(右)とオーナーの高橋斎さん

樽商大研究員・高野さん運営 街の歴史 伝える場に

小樽市色内2の旧国鉄手宮線沿いでこの秋、コミュニティスペース&カフェ「レールウェイ」が開業した。地域の研究者が運営を手がけ、子育て支援やまちづくりの団体に活動の場を提供するほか、旧手宮線による石炭の積み出しで栄えた、街の歴史を伝える場所に育てたい考え。

(有田麻子)

運営するのは小樽商科大研究員で、日本遺産「炭鉄港」などの研究に取り組む高野宏康さん(46)＝歴史民俗資料学Ⅱ。木造2階建ての空き家を義父の高橋斎さん(71)が昨年4月に取得し、子ども食堂を開いたが、人手不足で休止に。空知の石炭を小樽港に運ぶ大動脈として活躍した旧手宮線に面した立地を高野さんが気に入る、9月から運営を担うことにした。

団体向けに1階のホール(約330平方メートル)を3時間2千円で貸し出し、不登校の子どもを支援する「おたるエデュケーション」や読み聞かせ活動を行う「たるBOOK」が不定期で利用。NPO「つむぎ」による子ども食堂も金曜午後が開かれている。喫茶店「北じぞう」も営業しており、誰でも立ち寄れる。

高野さんは「子どもたちが気軽に集まれる場所として定着し、鉄道遺産も身近に感じてもらえたら」と願う。利用の問い合わせは高野さんへ080・5423・76588。